

各位

党派を超えて国家的課題を追求する  
**公益財団法人協和協会**  
**時代を刷新する会**

両団体会長代行 岸 信 夫  
両団体理事長 半 田 晴 久  
教育部会長 若 林 克 彦  
専務理事兼事務局長 清原 淳平

**教育部会のお知らせ** (第322回)

**日時** 平成28年2月19日(金) 午後1時半～3時半  
**場所** 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室  
千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より下車2分、  
永田町駅(有楽町線・南北線)①番出口より下車5分。当日、  
午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。時  
刻前に到着された方は、恐縮ですが、金属探知機通過後、受付  
脇のロビーにてお待ちください。会議開始後にお越しの方は、  
受付に「第5会議室に行きたい」旨、お伝え下されば、お迎え  
にまいります。

**議 題** 1、最近の教育問題について思う  
挨拶 若林克彦部会長(国土館大学前学長)  
2、日本の医学教育の現状と問題点  
解説 河村弘庸東京女子医大名誉教授

**報 告** 去る1月25日開催の第321回教育部会は、若林克彦部会長  
が議長を務め行われました。まず、清原淳平専務理事より、当日  
の講師・大野高裕早稲田大学理事の経歴紹介がありました。次に、  
若林部会長より開会挨拶がありました。1月13日に、文科省で  
「特定研究大学(仮称)制度検討のための有識者会議審議まとめ」  
が公表された。法科大学院を初めとした専門職大学院が成果をあ  
げておらず、いかに社会に通用する人材を輩出するか、公共政策  
をどう教えるか、会計学離れをどう食い止めるかなどが課題に挙

げられ、修士課程と専門職課程との住み分け、日本の学位の国際通用性なども課題に挙がっている。社会人でも働きながら学びやすく、博士号を持った人材を世界に向かって輩出することが目的のようだ。

これを受けて、大野先生より、「早稲田大学の大学教育改革への取り組み」と題して以下の趣旨の解説がありました。早稲田大学では、創立130周年となる2012年に「ビジョン150」と題して、150周年を迎える2032年までの目標を立てた。大隈重信の精神に立ち返り、長期的理想を掲げ、4つの基軸、13の戦略、75のプロジェクトを立てた。大学は数値目標をあまり立てない傾向にあるが、学部生徒数、外国語による授業の比率など8つの数値目標を立てている。人間力と洞察力を備えたグローバルリーダーの育成を目標として、全学生の海外留学を行うプログラムを立案している。グローバルとはいっても、そのまま海外に流出するという意味ではなく、得た知識を日本の国内で活かしていくことを目指している。

その後の意見交換では、○単位制度を廃止し、研究成果に応じて進級や卒業を決める点も外国に倣って導入してはどうか。今の単位制は取得し易い課目を採るので、比較衡量力がなくなる。○国立大は収入の70%が国の補助金によるものだが、早稲田のそれは10%以下に過ぎない。もっと研究によって資金を調達していかなければ、早稲田とは言え財政破綻してしまうかもしれない、という危機感を持って運営を行っている。○学長職は、昔は名誉職で誰もがやりたがったものだが、今の学長は決裁書類が多くかなりのハードワークで、前回の早稲田の総長選では対立候補が出なかったほどだ。○親が手元に子供を置いておきたい故に、留学に出したがない。特に男子学生と母親の関係性においては顕著だ。親が子離れできないのは深刻な問題だ、等々の意見が出ました。

★レクチュアにつき、資料代千円に御協力御願い申し上げます。

次回、2月19日（金）の教育部会に

出・欠（いずれかに○印）

事務局宛 F A X 03-3507-8587

御芳名

貴方様の F A X

電話

テロ対策への警備から、非会員で参加希望の方は、必ず、前日までに事務局へ御連絡下さい。

当日連絡先 080-8836-6203 又は 080-9292-2620

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320  
H P <http://www.jidaisassin.jp> Eメール [kiyohara@jidaisassin.jp](mailto:kiyohara@jidaisassin.jp)